

2022・6・1 更新

## ロードレース・駅伝についてのガイダンス

感染リスクを軽減させた競技会運営に向けた対応について

<競技者・チーム関係者（指導者 コーチ 部員）>の配慮事項

一般財団法人神奈川陸上競技協会

本協会主催競技会に関わる競技者・チーム関係者の方々は、つぎの事項を遵守して競技会に参加してください。

### 【競技者・チーム関係者対策】

- 1 競技者・チーム関係者は、大会1週間前から検温を義務付け、指定の「大会前／提出用新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート」に記入し大会本部へ提出する。一般・大学生・クラブチームは代表者が提出すること。但し、中学生は中体連、高校生は高体連でそれぞれ指示された書類を提出すること。また、提出前に、提出するデータをコピーまたは写真に撮り、保管すること。  
未提出者は、競技会の参加や会場への入場はできない。
- 2 「大会前／提出用 新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート」は、県陸協HPからダウンロードすること。
- 3 主催者は、「大会前／提出用 新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート」の個人情報の取り扱いには充分注意しながら1ヶ月保管し、適正かつ速やかに廃棄する。また、この個人情報を保健所、医療機関等の第三者へ提供する事がある。
- 4 不確かな競技者・チーム関係者がでた場合は、その場で検温を実施し状況によっては、競技場や会場への入場を許可しないことがある。
- 5 主催者は、競技会当日、競技者・チーム関係者が発熱などの感染疑いの症状がある場合は、競技会へ参加させない。
- 6 競技者は競技の時以外（招集中・移動中・待機中）は、マスクを必ず着用する。  
チーム関係者は常にマスクを着用すること。
- 7 更衣室の使用は、短時間にする。（※シャワールームは原則使用禁止とする。）
- 8 フィジカルディスタンスを確保した会場設営と競技運営をする。
  - ①参加者と競技運営関係者の動線をできる限り分ける。
  - ②密閉空間対策：諸室、更衣室、メディアルームなどの換気は徹底する。
  - ③密集・密接場所対策：諸室、更衣室、招集所、スタート待機場所、給水給食所、トイレなどは、フィジカルディスタンスが確保できる人数制限する。
  - ⑤ウェーブスタートをすることがある。（同じ場所に15分以上滞留させないため。）
  - ⑥ウォーミングアップは、個別に行う。
  - ⑦密集回避ために競技者へ付き添いは禁止する。

⑧接触を回避した給水所運営

- ・手渡しの提供はしない。
- ・余裕を持ったテーブル配置をする。
- ・給水スポンジは使用しない。
- ・回し飲みはしないこと。

⑨接触を回避した給食

- ・提供物は、個梱包のものを必要最低限で提供する。
- ・参加で記録証やリザルトは、印刷せず極力オンラインで発行する。

⑩駅伝競走では、競技者がゴール後にマスクが着用できるようにチーム内で荷物等の連携をとること。付き添いが選手の衣類・荷物等を扱う場合は、手袋を着用し、ビニール袋等で直接触れないようにすること。

⑪取材や表彰式を実施する場合は、3密を回避した形で実施する。

9 医療体制

- ①医師、看護師等を常駐させ、常に相談できる体制を整える。
- ②個人防護具を準備する。(フェイスシールド、マスク、使い捨てマスク等)
- ③レース中、フィニッシュ後に倒れたランナーのケアは防護体制を整えたスタッフが対応する。
- ④発熱者が出た場合の隔離室またはテントを確保する。

10 トイレ (便座 ドアノブ 水洗レバーの清潔を保つ。)

- ①感染防止の貼紙を貼付する。
- ②石けん、消毒液を常備する。
- ③仮設トイレに消毒液を設置する。

11 ゴミの廃棄

- ①施設内にゴミ箱は設置しない。
- ②ゴミは、各自必ず持ち帰ること。
- ③主催者は、マスクなどウイルスが付着している可能性のあるゴミを使い捨て手袋、トング等を使用しビニール袋に入れ密封して縛り廃棄する。
- ④飲み残しなどは主催者が適切に処理する。
- ⑤競技者は、衣服などは脱ぎ捨てないようにする。  
脱ぎ捨てられた衣服などは、主催者が直接触れず使い捨て手袋やトングなどで回収し廃棄する。

12 沿道の応援

- ①沿道の応援の自粛を要請する。競技者は、チーム関係者に必ず連絡しておく。
- ②沿道からのハイタッチ、私設エイドは禁止する。

13 開催1週間前の体調管理・検温の義務と主催者が指定した方法による健康管理チェックの報告及び終了後2週間の体調管理・検温を行う。 以 上